

立川駅周辺エリアで 「立川おでかけアプリ」を用いた MaaS の実証実験を開始します

～鉄道・バスの“リアルタイム検索”機能と、公共交通や沿線施設を利用できる“電子チケット”機能を検証～

小田急電鉄株式会社（東京都新宿区 取締役社長：星野 晃司／以下「小田急電鉄」）と東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区 代表取締役社長：深澤 祐二／以下「JR 東日本」）は、株式会社ヴァル研究所（東京都杉並区 代表取締役：菊池 宗史／以下「ヴァル研究所」）と協力し、「立川おでかけアプリ」を用いた立川駅周辺エリアにおける MaaS の実証実験を2020年1月31日（金）から開始します。

本実証実験は、東京都が公募した「MaaS の社会実装モデル構築に向けた実証実験」として実施するものです。鉄道とバスのリアルタイム運行データを用いた経路検索ができる“リアルタイム検索”と、公共交通や沿線施設を利用できる“電子チケット”を1つのアプリで提供し、立川エリアでの「おでかけ」全体のサポートについて検証します。公共交通をより便利にご利用いただけるようにすることで、周辺道路の混雑緩和や対象地域の観光施設の来訪者満足度向上を目指します。

“リアルタイム検索”機能では、JR 東日本の中央線（東京～甲府間）・南武線および小田急グループの立川バスについて、遅れが発生した際にその遅れを加味した検索結果を表示します（列車の運休および一部の臨時列車には対応していません）。なお、「事業主体が異なる鉄道とバスのリアルタイム運行データを同時に用いた経路検索の提供」は日本初の取り組みです。

また、“電子チケット”機能では、「Enjoy！！たまもの・TAMA-ZOO パス」（多摩モノレールの1日乗車券と多摩動物公園入園券のセット券）と、「1Day 立バス」（立川バス1日乗車券）を発売します。これらの電子チケットは、アプリに登録したクレジットカードを用いて購入することができ、アプリ内の所定の画面を、駅やバス車内、多摩動物公園入り口等で提示することで使用できます。

三者は、「立川おでかけアプリ」でご提供するサービスやアプリそのものの操作性等をより良いものにしていくことを目指しており、多くの方に本実証実験にご参加いただきたいと考えております。



図1 本実証実験の企画提案企業と各社の役割

本実証実験の概要は下記のとおりです。

記

- 1 実証実験期間 2020年1月31日(金)～2020年3月13日(金)
- 2 対象地域 立川駅周辺エリア
- 3 使用するアプリ
 - (1) 名称 立川おでかけアプリ
 - (2) 対応 iOS、Android
 - (3) 専用サイト <https://tachikawaodekake.net/>
- 4 提供するサービス
 - (1) リアルタイム検索(経路検索)

全国の鉄道・バスのダイヤ情報を基にした経路検索機能に加え、立川駅周辺エリアにおける利便性を高めるため、当エリアに関連した線区等(※)の遅れを加味した検索結果を表示します。

※ 対象線区等：JR東日本の中央線(東京～甲府間)、南武線、および立川バスの路線バス全線

この「事業主体が異なる鉄道とバスのリアルタイム運行データを同時に用いた経路検索の提供」は日本初の取り組みです。これを多くの方にお試しいただきご意見をいただくことで、今後、よりよいサービスに育てていきたいと考えております。



左端に紫の帯のある区間
=リアルタイム運行データ使用区間

遅れが発生していない場合
=右に「定刻通り」と表示し時刻表どおりの時刻を表示

遅れが発生している場合
=右に「遅れています」と表示
赤字で現在の運行時刻を表示

何らかの理由でリアルタイム運行データが取得できない場合
=右に「情報がありません」と表示し
時刻表通りの時刻を表示

図2 検索結果画面イメージ

(2) 電子チケット機能

「立川おでかけアプリ」内のチケットストアにて、以下の2チケットをクレジットカード決済で販売します。利用日にチケットを有効化していただき、各係員やバスドライバーにチケット画面をご提示いただくことで、各種サービスをご利用いただけます。なお、本実証実験では一端末につき一人分の販売となります。

- 「Enjoy!! たまもの・TAMA-ZOOパス」
多摩モノレールの1日乗車券と多摩動物公園の入場券のセット券
※ 2月1日(土)～2月29日(土)の販売
※ 大人(高校生以上)のチケットのみの販売(1,000円)
- 「1Day立バス(デジタル1日乗車券)」 立川バス1日乗車券
※ 2月1日(土)～3月13日(金)の販売
※ 大人チケットのみの販売(700円)



図3 電子チケット購入画面イメージ

【参考1】小田急グループと「MaaS Japan」について

小田急電鉄は、中期経営計画において、「次世代モビリティを活用したネットワークの構築」を掲げており、自動運転バスの実用化に向けた取り組みのほか、複数のモビリティや目的地での活動を、検索から予約・決済まで、一つのサービスのようにシームレスに利用者に提供する MaaS の実現に向けた取り組みを推進しています。

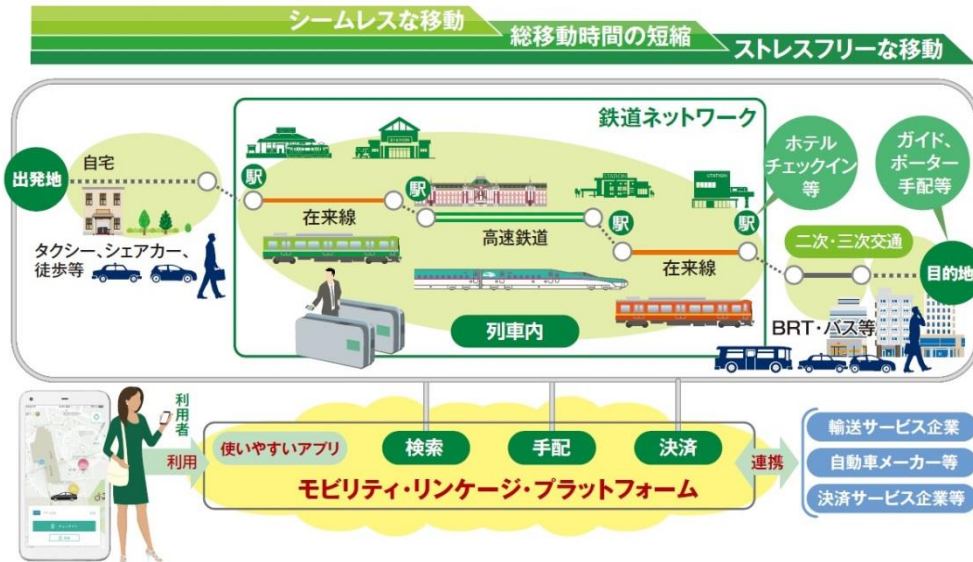
「MaaS Japan」とは、小田急電鉄がヴァル研究所の支援のもと開発している MaaS の実現に必要なデータ基盤のことで、鉄道やバス、タクシー等の交通データや各種フリーパス・商業施設での割引優待をはじめとした電子チケットの検索・予約・決済等の機能を提供するものです。このデータ基盤は MaaS アプリへの提供を前提とした日本初のオープンな共通データ基盤として、小田急電鉄が開発する MaaS アプリ「EMot」だけではなく、他の交通事業者や自治体等が開発する MaaS アプリにも活用できるものとしています。

これにより、小田急電鉄以外の交通事業者や自治体等による MaaS への参入を容易とする環境を整備しており、本データ基盤を通じて、国土交通省による「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会中間とりまとめ」も踏まえながら、日本のどこにいても「会いたいときに、会いたい人に、会いに行ける。」次世代モビリティライフの実現に貢献していきます。

【参考2】JR東日本とMobility Linkage Platform (MLP) について

グループ経営ビジョン「変革 2027」において、移動のための検索・手配・決済をお客さまにオールインワンで提供する「Mobility Linkage Platform」を構築し、「シームレスな移動」「総移動時間の短縮」「ストレスフリーな移動」を実現することを目指しています。

これにより、お客さまが 24 時間、あらゆる生活シーンで最適な手段を組み合わせるサービスを利用できる環境を実現します。



【参考3】ヴァル研究所について

1988年に経路検索システム「駅すぱあと」を発売して以来、全国の公共交通機関データと高い信頼性をベースにさまざまな法人向け／個人向け製品・サービスを展開しており、12万社以上を顧客に持ちます。

近年では公共交通機関に加え、さまざまな新しいモビリティサービスへの対応等、MaaS分野への取り組みや次世代の経路検索システムの研究・開発を推進しています。

2019年7月には、アプリやWebサイトに鉄道・バス・タクシー・シェアサイクル・デマンドモビリティ等に対応した複合経路検索や、フリーパスにも対応した料金・運賃計算等を、容易に組み込むことができる「mixway API」をリリースしました。

現在、小田急電鉄のMaaSアプリ「EMot」、JR東日本の「JR東日本アプリ（日本語版）」、各地の実証実験等に活用されており、本実証実験で提供する「リアルタイム検索」にも採用されています。

紹介サイト：<https://mixway.ekispert.net/lp/api>

以上